

ゆめみにゅーす



YUMEMI ZOO



季刊 VOL. 64
発行日 令和4年5月10日
発行責任者 夢見ヶ崎動物公園
問い合わせ 044-588-4030
飼育展示数 哺乳類:24種157点
鳥類:23種77点
爬虫類:10種102点
(令和4年4月末日現在)

元気です

気兼ねなく出かけられるようになるにはまだ時間がかかりそうなので、今回も動物たちの日常の一枚をお見せします。



ビリーありがとう

ハートマンヤマシマウマの「ビリー」が死亡しました。24歳5か月（国内最高齢）でした。

加齢による筋力の低下・体力の衰えから1月下旬に一時的に起立できなくなり、治療をしていました。過長蹄の影響により足に負担がかかっていることも推測され、再び起立困難になることを防ぐためこれ以上体力、脚力が低下する前に治療のための削蹄を行いました。自力で起立することができず、2月6日死亡しました。

また当園の「ビリー」と「ミドリ」との間には、当園にいる「アース」を含め4頭の子供が生まれ、各地の動物園でいまでも活躍しています。

今までビリーをかわいがってくれた皆様、ありがとうございました。





*公式フェイスブックはじめました。詳しくはこちらから。

★ピックアップ動物★

ヤギ 哺乳綱 鯨偶蹄目 ウシ科

野生種のマーコールやアイベックスなどの他、家畜として古くから世界中で飼育されており、様々な品種があります。

蹄には硬い弾力性があり、木や岩のわずかな取っ掛かりを吸い付くように捉え、うまく登り降りしたりそのまま安定して静止していたりします。

当園の家畜ヤギたちは現在オスのタンゴ、メスのライとユベシの3頭です。

タンゴは血気盛んにスパーリングの態勢を取ったりぐいぐい押して来たりしますが、本気がかかってくることはなく、また相手になる者の顔を見分けており、そうでない者には遊びをねだることもありません。

若い頃は怒りっぽく人を寄せ付けたがらなかったライは10歳を超えて性格が丸くなり、スキンシップを取りたがることも多くなってきました。

ユベシは常にマイペースで周りのヤギやヒトの動きに動じることなく好きなタイミングで好きな場所に行って反芻し、清掃用の竹ぼうきのはねた枝を器用に鼻に突っ込んでくしゃみをしています。

最近職員手作りでやぐらを新調し、まだ慣れないヤギたちの行動が少しずつ大胆になっていく様を、我々も楽しく観察しているところです。



獣医の日記

動物園の動物を診察する際、いつも病院に連れて行くわけではありません。動物の大きさや種類、状態によっていつものグラウンドや寝室で保定したり、その場で麻酔や鎮静をかけたりすることもあります。捕まえて病院に連れて行く場合も、種類によって大人しく抱っこして行けるもの、ケージなどに追い込むもの、素手や革手袋、タオルや麻袋で保定するもの、網で捕まえるものなど様々です。

タヌキのげんまいは母親が巢の引っ越しをしている最中に排水溝に隠していたのを子犬と間違っって誤認救護(私達は誘拐と呼んでいます)され、野生に戻せなくなった人工哺育の個体です。ヒトに慣れていますが、一部の職員にベタベタでそれ以外にはそうでもなく、ミルクを飲ませてつきっきりの世話をしたかどうかあまり関係なく、好みの問題のようです。そんな彼女の毎年の健康診断は、お互いにストレスが無いよう、抱っこしてケージに入れられる、彼女に気に入られた職員が揃っている日に決行することになっています。それでも毎回円満には行かず、臭腺の分泌液を掛けられますが、終わったあとは変わらぬ態度で接してくれるので、次の健康診断もスムーズに出来るよう、普段からちょくちょく顔を出し良い関係を崩さぬよう努めています。



★動物たちの主な移動(令和4年2月1日~令和4年4月30日)★

シマウマ(♂1死亡)、フラミンゴ(♀1死亡)